2025年
4月1日
第8号

ひょうご NIE 通信

―2025 神戸大会へ―

発行　神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局　〒650－8571　神戸市中央区東川崎町1－5－7
☎078－362－7003　　メール hyogo-nie@kobe-np.co.jp

Newspaper in Education
教育に新聞を

「メディアリテラシー育みたい」

神戸大会を前に　姫路・豊富小中、川村教諭に聞く

兵庫の代表的な NIE 活動校の一つ、姫路市立豊富小中学校は、今年夏の「第30 回 NIE 全国大会神戸大会」で公開授業と実践発表を行う。同校前期課程（小学校）の川村かおり教諭（日本新聞協会 NIE アドバイザー）に取り組みを聞いた。（聞き手・神戸新聞社 NIE・NIB 推進部シニアアドバイザー、兵庫県 NIE 推進協議会事務局長　三好正文）

―公開授業、実践発表の内容は。

前者は、小学生が全国各地のこども新聞に載った同一テーマの記事を読み比べます。後者は、中学生による観光都市姫路や世界文化遺産・国宝姫路城の魅力を伝える取り組みを紹介します。今、各自が新聞4紙（デジタル版含む）2年分から気になる記事を探しています。あとは当日をお楽しみに。

―NIE 実践が活発です。

「調べる力」を鍛えるには新聞が有効と、まず小中別々に実践し、2020 年4月、9年制の義務教育学校として開校した際、特色ある取り組みに「NIE 推進」を掲げました。

NIE実践の効果について話す川村かおり教諭＝姫路市内

新聞をつかう、つくる活動―オンラインを含めた「まわしよみ新聞」作り、神戸新聞の新聞作りアプリを使った紙面製作、新聞紙スリッパ作り―などから始め、新聞のある風景が日常になりました。

24 年度からは週1回、朝の時間を「NIE タイム」とし、全校で多様な活動を続けています。小学高学年は朝日小学生新聞のコラム「天声こども語」を書き写したりしています。

授業支援アプリ「クラスクラウド」も導入しました。各自が気になった記事をアップし、他の子どもが「他者参照」でコメントを書き込んだり、いいね！を付けたりする。他の人の意見を知ることで、自身の考えが深まるようです。

―NIE 活動で目指すものは。

児童生徒が自身で情報を取捨選択し発信する「メディアリテラシー」を育むこと。記事を読み比べることで、まとめ・表現の力も育ちます。

最近、時事問題に関心を持つ児童が増えたのがうれしいです。

神戸大会には小学生1クラスが参加し、中学生も何人か発表に行く予定です。みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

2001年7月、神戸市内で開かれた「第6回NIE全国大会」

「民主主義支える子ども育てる」

新聞協会 NIE コーディネーター　関口さん

NIE全国大会が神戸で開かれるのは 2001 年以来 24 年ぶりだ。今なぜ、NIE なのか、改めて考えたい。

NIE は、1930 年代のアメリカで始まった。日本では 85 年、静岡で開かれた新聞大会で提唱され、現在、全 47 都道府県に、活動拠点の NIE 推進協議会（取材拠点を置く新聞・通信社や、教育行政、学校現場の代表などで構成）が組織されている。兵庫の推進協は 98 年に設立された。

提唱から40年たち、世界中に真偽不明の情報が氾濫し、暮らしや命をも脅かす時代となった。今、新聞が教育に貢献できることは何か。

神戸大会を主催する日本新聞協会の関口修司・NIE コーディネーターは「情報の海の中、事実に基づいた情報を提供し、一番のよりどころとなるのが新聞ではないか。正しい情報で考え、行動し、民主主義社会を支える。そんな子どもたちを育てるのが新聞や NIE の役割」と話す。さらに「新聞活用を通じ、子どもが育ち、先生の指導力も向上する。神戸大会が、新聞を読まない先生や子どもにも NIE の良さを届ける契機になれば」と語った。

この夏、神戸の地で、NIEの現在地や未来について考え合いたい。

（神戸新聞社 NIE 神戸大会事務局　網　麻子）

神戸新聞 2025年03月28日 金曜日 面名 教育１　１３ 15ページ

なおみ先生の
NIE教室

⑧ 話せば分かる

特別支援学校に４年間勤めた中で、印象に残っている小学部低学年の女の子がいます。バギー型車いすに横たわったままで、話すことができない彼女の気持ちは、少しの手の動きと、表情、目線を頼りに想像していました。ところが、学校にiPad（アイパッド）が導入され、目の動きで考えを伝えられるようになると、彼女がさまざまなことを感じ、考え、周りの人が思っている以上に多くを理解していることが分かりました。それは、霧の中で迷っているようだった家族、教員の前に新しい道が開けた、感動の瞬間でした。

「自分の気持ちを相手に伝えられるということは、自分が人としてこの世界に存在していると自覚できることなのです」。話ができない重度の自閉症である東田直樹さんは、パソコンや文字盤を使って書いた本「自閉症の僕が跳びはねる理由」の中で語っています。

人が何を考えているかは、聞いてみなければ分からない。新聞にはインタビュー記事が多く掲載されています。新しい人と出会う新学期、神戸新聞朝刊の「人」（総合面）「播磨びと」（西播版）「きらりひと巡り」（東播版）「ひと探訪」（阪神版）などを参考に、内面に迫る質問を２～３考え、生徒同士でインタビュー記事を書くのはいかがでしょう。周囲の評を取材し写真を添えれば、人物が立体的に捉えられます。クラスで共有すると、思わぬ発見があったり、共通点を見つけたり。先生方の学級経営にも役立ちます。話せば分かる。　（NIE・NIB推進部顧問　吉田尚美）

◆NIEは学校で新聞を教材として活用する活動です。この連載は第４金曜に掲載。

よしだ・なおみ　兵庫県稲美町出身。県内公立高校国語教諭、三木北高校長、播磨南高校長などを経て現職。

生徒同士でインタビューを

2025年３月28日付神戸新聞朝刊教育面に掲載されました